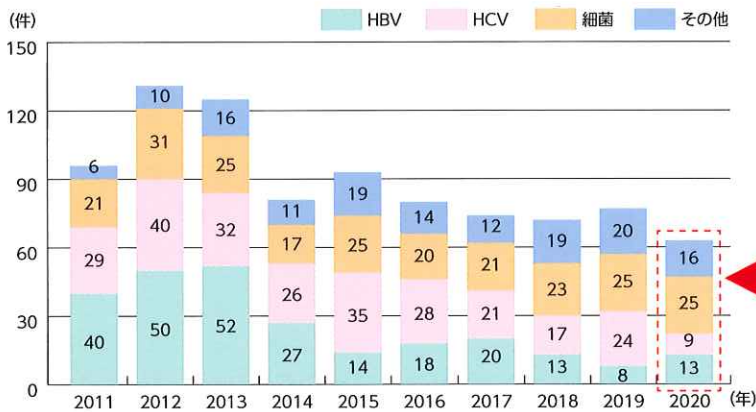


輸血用血液製剤との関連性が高いと考えられた感染症症例 —2020年—

輸血によるウイルス等の感染が疑われ、2020年に医療機関から赤十字血液センターに報告された症例（自発報告）及び献血後情報に基づく遡及調査を行った症例の中で、献血血液の検体等にウイルス核酸や細菌が検出され、輸血による感染と特定された症例は、HBV 2件、細菌 2件、HEV 6件でした。

輸血による感染の疑いとして赤十字血液センターに報告された症例数の推移と2020年に報告された病原体別の症例数とその解析結果



病原体	報告件数	特定
HBV	13	2
HCV	9	0
細菌	25	2
CMV	3	0
HEV	11	6
ヒトパルボウイルス B19	1	0
HTLV-1	1	0
計	63	10

症例概要（献血血液の検体等に病原体等が検出され、輸血による感染と特定された症例）—2020年—

細菌

●自発報告：輸血による細菌感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例 No.	輸血用血液製剤 (採血年月)	原疾患	年齢	性別	症状	発現時間 (投与開始後)	輸血後の検査結果		患者転帰
							輸血用血液製剤	患者血液	
1	Ir-PC-LR (2020.6)	骨髄異形成症候群	80代	女	悪寒戦慄、発熱、 血圧低下	約4時間	<i>Enterococcus faecium</i>	<i>Enterococcus faecium</i>	軽快
2	Ir-PC-LR (2020.9)	急性リンパ性白血病	40代	女	悪寒戦慄、発熱、嘔吐、 水様便、血圧低下、 酸素飽和度低下	15分	<i>Escherichia coli</i>	<i>Escherichia coli</i>	回復 (後遺症あり)

細菌感染が疑われる場合の対応について

- 細菌感染が疑われる症状がみられた場合には直ちに輸血を中止して適切な処置を行ってください。
- 使用済み製剤バッグを適切に保管[※]し、最寄りの赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。
- 使用済み製剤バッグの細菌培養試験の実施については、無菌的に検体採取が可能な場合をお願いします。
- 細菌感染が疑われた場合は原因究明のために、使用済み製剤バッグをご提供ください。

注) 輸血セットのクランプを固く閉め、輸血部門に返却をお願いします。その後、点滴筒の上下をチューブシーラーでシール(チューブシーラーがない場合は鉗子等で確実に結紮)し、バッグごとビニール袋に入れて清潔に冷蔵保管(冷凍は不可)してください。

HBV

●献血後情報：献血血液のスクリーニング検査の陽転化情報に基づく遡及調査により判明した症例

症例No	輸血用血液製剤(採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰
					検査項目	検査結果	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)	輸血からの期間	
1	Ir-PC-LR (2020.1) ^{*1}	急性骨髄性白血病	70代	女	HBs抗原 HBs抗体 HbC抗体	陰性	HBV-DNA	23週	715	38週	未回復
							HBs抗原	38週			
2	Ir-PC-LR (2020.8) ^{*2}	急性骨髄性白血病	30代	男	HBs抗原 HBs抗体 HbC抗体	陰性	HBV-DNA HBs抗原	7週	◆	◆	不明

*1 当該献血はHBV-NAT陰性、5週間後献血時にHBV-NAT陽性 *2 当該献血はHBV-NAT陰性、4週間後献血時にHBV-NAT陽性 ◆比較データなし

HEV

●自発報告：輸血によるウイルス感染の疑いとして医療機関から報告された症例

症例No	輸血用血液製剤(採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)		輸血からの期間
1	Ir-PC-LR (2020.4)	再生不良性貧血	60代	男	なし	/	/	IgA-HEV 抗体	6週	2,650	42日	軽快
2	FFP-LR (2019.6)	大動脈弁狭窄症・閉鎖不全	70代	男	なし	/	/	HEV-RNA IgA-HEV 抗体	8週	455	58日	軽快
3	Ir-WRC-LR (2019.12)	続発性骨髄線維症	60代	女	なし	/	/	HEV-RNA IgA-HEV 抗体	30週	288	206日	軽快

●献血後情報：血漿分画製剤の製造に係る原料血漿の精査に基づく遡及調査により判明した症例

症例No	輸血用血液製剤(採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)		輸血からの期間
1	Ir-RBC-LR (2019.5)	出血性直腸潰瘍 中枢神経系血管炎	不明	女	HEV-RNA IgA-HEV 抗体 IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	陰性	0日	IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	38週	355	89日	回復

●献血後情報：献血者のHEV-NAT陽性情報に基づく遡及調査により判明した症例

症例No	輸血用血液製剤(採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)		輸血からの期間
1	Ir-PC-LR (2020.2)	節外性NK・T細胞性リンパ腫	50代	女	HEV-RNA IgA-HEV 抗体 IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	陰性	1日	HEV-RNA	4週	66	17日	軽快

●献血後情報：自発報告症例No.1に基づく遡及調査により、同一献血者の次回献血由来の輸血用血液製剤を供給した医療機関から報告された症例

症例No	輸血用血液製剤(採血年月)	原疾患	年齢	性別	輸血前		輸血後		ALT		患者転帰	
					検査項目	検査結果	輸血までの期間	陽転項目	輸血からの期間	最高値(IU/L)		輸血からの期間
1	Ir-PC-LR (2020.5)	急性リンパ性白血病	20代	男	HEV-RNA IgA-HEV 抗体 IgM-HEV 抗体 IgG-HEV 抗体	陰性	1日	HEV-RNA IgG-HEV 抗体	6週	275	42日	回復

■日本赤十字社におけるHEVに対する安全対策について

▶2020年8月5日採血分から、HEVの核酸増幅検査(個別NAT)を実施しています。

2021年7月現在、HEV-NAT導入後の献血血液によりHEV感染が特定された症例はありません。

HEV-NAT導入に関する詳細については、2020年7月発行 お知らせ文「HEV-NAT導入による輸血用血液製剤の更なる安全対策の実施について」をご参照ください。(https://www.jrc.or.jp/mr/product/information/pdf/info_202007.pdf)

▶献血会場において、HEVの感染源と受血者への感染リスクを周知するとともに、献血者への問診を徹底しています。

▶HEVに感染するリスクのあるブタ、イノシシ、シカの肉や内臓を生又は生焼けで食した方については、摂取した時点から6か月間は献血をご遠慮いただいております。

輸血用血液製剤の使用による副作用・感染症が疑われた場合は、直ちに赤十字血液センター医薬情報担当者までご連絡ください。また、原因究明のために、使用された製剤及び患者の検体等の提供をお願いすることがあります。なお、使用された製剤及び患者の検体は「血液製剤に係る遡及調査ガイドライン」を参照のうえ保存してください。

輸血情報 2109-174

〈発行元〉

日本赤十字社 血液事業本部 技術部 学術情報課
〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目2番1号
※お問い合わせは、最寄りの赤十字血液センター
医薬情報担当者へお願いします。



製品情報・輸血情報等についてはこちら

日本赤十字社 医薬品情報

スマートフォン・タブレットにも対応しています。

